

尼崎市長あて

尼崎市市民提案制度 実施結果報告書

尼崎市市民提案制度実施要綱に基づき、次のとおり報告します。

1 提案概要

団体名及び 代表者氏名	一般社団法人 ポノポノプレイス 代表理事 吹野 加代
事業名	双星放課後カフェ
事業所管課	総合政策局 園田地域振興センター 園田地域課 教育委員会事務局 学校教育部 幼稚園・高校企画推進担当
事業内容	(実施期間、実施場所の実績についても明記のこと) 尼崎双星高等学校内で、気軽に立ち寄れる「居場所」をカフェ形式で提供し、学校でもない家庭でもない、「第三の居場所」において、様々な大人との交流を通じて、生徒達の悩みを共有し解決などを図っていく。 令和3年度は、4・11・12・1月に延べ8回実施した。参加者は延べ311名

2 事業評価

(1) 協働側面の評価

実施手順

- ・下表について、相互に自己採点する。評価基準は次のとおりとする
A（よくできた）、B（まあまあできた）、C（あまりできなかった）、D（まったくできなかった）
- ・結果を共有し、差異がみられる項目を中心に、原因や改善策等について意見交換を行う
- ・協議内容は「3総合評価」に記載する
- ・結果を共有する際は、衝突を恐れず、互いを尊重しながら、率直な意見交換を行うこと。

項目	団体等	所管課
1 事業計画（準備）段階		
(1) 課題や目標について共有し、理解し合うことができたか	B	B
(2) 相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか	C	C
(3) それぞれの強み弱みを理解し、補い合いながら計画を立てられたか	B	B
2 事業実施段階		
(1) 率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか	B	B
(2) 予定外のことについて、協力して対応することができたか	A	A
(3) 役割分担にとらわれて任せっきりにすることなく、主体的に関われたか	A	A
(4) 実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか	A	A

(2) 事業効果の評価

実施手順

- ・事業実施前を目途に、協議・合意の上、一つ以上設定する
- ・事業の効果が客観的に測れるよう、受益者の評価など、アウトカム指標を原則とする

	項目	内容
1	評価指標	「今後も開催（参加）を希望する」と答えた生徒の数
	測定方法	アンケート
	結果	78人（アンケート回答者84人中、92.8%）
2	評価指標	カフェを利用した生徒の内、個別に交流等を行った実績
	測定方法	定期的な事業の振り返り時などで確認
	結果	マジック研究部が活動場所について相談があったため、関係者と調整し、子ども食堂の子ども達を対象に、ユース交流センターでマジック発表会を開催できた。

3 総合評価

協働側面の評価

- 1-(2)「相手の立場や組織、ルール等を共有し、理解し合うことができたか」について
- ・今までは、直接学校側とスケジュール調整等を行っていたが、今年度から市の事業になったことで、学校側との窓口を主に所管課が担う形になり、これまでの学校との関係に距離がでてしまった。
 - ・コロナの感染拡大に伴い、開催の延期、中止が余儀なくされたが、お互いの立場に立った調整が十分ではなかった。
- 2-(1)「率直な意見交換を行い、理解し合いながら、対等な立場で実施できたか」について
- 実施段階においても、団体側と学校側とで十分に意見交換等を行えたとはいえず、また、所管課としても間に入った調整が十分ではなかったとのことである。
- 2-(2)「予定外のことについて、協力して対応することができたか」について
- 2-(4)「実施中に目標や進捗を共有し、改善しながら進めることができたか」について
- ・コロナ禍を踏まえた実施方法について、「開催」か「中止」か、ではなく、団体と学校が双方の状況等も考える中で協議し、学年別開催とすることで人数を制限し、食事ブースと談話ブースを区分するなど、感染対策を図る中で開催に至った。
 - ・結果、可能な限り密が避けられ、かつ、少人数の参加になったことで交流がしやすくなった。
 - ・上下関係を気にすることなく、気軽に参加ができ、新たな参加者も得た。

事業効果の評価

- ・評価指標1から、カフェを利用した生徒はほとんどが再度利用したいとのことであり、事業実施における満足度は高い。次のステップとして、全生徒にカフェの存在を知ってもらい、利用してもらうことと考えていることから、全生徒に対する利用者比率等を今後の指標化として検討したい。
- ・評価指標2について、個別に交流等を行った実績などは、当事業の実施目的の大きな柱と言えるものであるが、相談数の多寡のみで評価できないことから、今後もより適切な評価指標について協議していく。

総評

- ・市と協働で事業を実施できたことは、資金面の支えになったことはもとより、事業実施の際などにおいて様々な支援等を得られ、団体として事業運営に集中することができた。
- ・一方で、前述のとおり、主体者が増えた関係で各調整に時間を要したことや、コロナの影響もあって、直接協議等をする場の設定が難しく、結果、意思疎通の面でかみ合わない事象も生じた。
- ・今後においては、改めて協議の場（事業の振り返りも含めて）の定期開催を行い、まずは、学校も含めて主体者同士のコミュニケーションを高めていきたい。
- ・特に、開催日の調整や生徒への広報には課題があったことから、上記を重ねる中で、よりよい手法で実施していきたい。
- ・ユース交流センターの職員（SSW）の参加や協力を得られる企業（アサヒ飲料クラブチャレンジャーズなど）も増えてきたことから、来年度に向けてはこういった状況を活かしていくとともに、学年別開催としたことから、発表の場や交流の場も増やしていきたい。

（実施結果報告に対する審査会委員意見）

- ・成果指標は参加者へのアンケートが中心となっているが、この取組によって、参加していない生徒を含む学校全体や、地域がどう変化しているかなど、参加者以外の変化にも注目してほしい。
- ・コロナ禍となって数年が経つ中、コロナに左右されない実施方法についても検討してほしい。
- ・令和4年度に向けても採択となったが、実施体制など、審査結果において評点が低かった項目について強化を図るなど、進化を続けてほしい。

4 収支結果（協働事業のみ）

収入の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
市補助金	300,000	300,000		
自主財源	240,000	45,071		
収入合計	540,000	345,071		
支出の部				
科目	積算金額（単位：円）			内容及び算出根拠
	予算額	決算額		
		計	うち市補助金	
需用費	380,000	273,071	228,000	消耗品 218,570円 消耗品(カフェ材料費 54,501円)
報償費	72,000	20,000	20,000	アロママッサージ @2,000円×2回 スイーツ製作費 @2,000円×8回
人件費	60,000	52,000	52,000	@1,000円×52名（延べ）
支出合計	512,000	345,071	300,000	補助額に対する人件費割合： 17%（委託事業は記入不要）